

令和5年度 第1回横浜市障害者就労支援推進会議 会議録	
日時	令和5年11月21日(火) 9時30分～11時30分
場所	京阪横浜ビル 10階大会議室
出席者	眞保委員長、石川委員、高尾委員、小林委員、清田委員、草野委員、山木委員、伊藤委員、伊奈委員、須藤委員、後藤委員、男澤委員
欠席者	福田委員
開催形態	公開
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会、概要説明 2 障害福祉保健部長挨拶 3 委員紹介、委員長選出 4 横浜市障害者就労支援推進会議について（概要説明） 5 事業説明 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第4期横浜市障害者プランの概要について (2) 就労支援系の各事業について 6 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「働きたい！私の職業体験・見学会」について (2) 意見交換 7 報告 <p style="margin-left: 2em;">「横浜市障害者支援施設等に準ずる者の認定要綱」の改正について</p> 8 閉会
決定事項	推薦により、眞保委員を委員長として選出。
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会、趣旨説明 2 横浜市挨拶 3 委員紹介、委員長選出 <p style="margin-left: 2em;">委員の互選により眞保委員が選出された。</p> 4 横浜市障害者就労支援推進会議について <p>【眞保委員長】</p> <p>それでは、これより次第に沿って議題を進める。まず、「横浜市障害者就労支援推進会議について」事務局から説明をお願いします。</p> <p>【事務局】（資料1にそって説明）</p> <p>【眞保委員長】</p> <p>ただいま事務局から「横浜市障害者就労支援推進会議について」の説明があったが、御質問等はあるか。</p>

【委員】

質問、意見なし。

5 事業説明

(1) 第4期横浜市障害者プランの概要について

(2) 就労支援係における各事業の概要について

【眞保委員長】

続いて、事業説明に移る。「第4期横浜市障害者プランの概要について」「就労支援係における各事業について」について事務局から説明をお願いする。

【事務局】

(1) 第4期横浜市障害者プランの概要について（資料2にそって説明）

(2) 就労支援係における各事業の概要について（資料3から資料6-3にそって説明）

【眞保委員長】

ただいま事務局から「第4期横浜市障害者プランの概要について」「就労支援係における各事業の概要について」の説明があったが、御質問等はあるか。

【石川委員】

障害福祉事業所への仕事の依頼について、校内清掃や学校のプール清掃等が発注されているとのことだが、学校のカーテンの洗濯は発注されていないのか。以前は学級委員が各家庭に持って帰って洗濯していたこともあったが、現在はそのようなことは行っていない。

【事務局】

各所からの施設への受注に関しては、共同受注センター「わーくる」が取りまとめている。全ての学校が発注しているわけではないが、本年度もカーテンのクリーニングの相談が入っていると伺っている。

【石川委員】

承知した。

【石川委員】

就労支援センターについて、定着支援の件数が増加してきているが、就労支援センターの職員の人員がそれらすべてをカバーすることができるのか。団体でも不安の声が上がっている。

【事務局】

法定雇用率も上がっており、定着の支援の重要性は高まっている。

また、ニーズも多様化している。

そのため、就労支援センターでは、2か月に1回センター間での連絡会や、人材育成研修を行うことで、職員のスキルアップを図っている。

また、就労支援センター以外にも、(就労定着支援事業を行う) 移行支援事業所や A 型・B 型事業所も増えてきている。

【石川委員】

今年度のシンポジウムでは、「就労準備性」の講演をするとのことだが、以前にも同じような話をさせていただいたことがあり、その時の感想として「これから働こうとしている障害のある方やご家族だけでなく、学齢期の子を持つ、親御さんたちに聞いてもらえると良いと思った。」という声があった。

対象にそのような方も聞いてもらえるようにしてほしい。小さいころからの積み重ねが大事。

【事務局】

今回、講演していただく予定の内容は、以前に特別支援学校の先生向けに説明を行ったものをベースとしている。

学校の先生から情報を伝えてもらえるよう周知を行う。

【石川委員】

学校の教員経由だと親御さんたちへは情報が間接的になってしまう。

直接、放課後デイサービスを利用している親御さんたちに伝えてほしい。

【伊奈委員】

就労に関する情報については、高等部に進学してからでは遅すぎると思う。

障害のあるお子さんの親御さんや地域の学校から進路に関する相談を受けているが、「中学校」が一つのカギになっていると思う。

シンポジウムのような場は、学校の先生・保護者ともに参加しやすいとよい。

【眞保委員長】

週末開催の方がよいのか。

【事務局】

昨年度は、「会場」と「YouTube での当日ライブ配信」を行った。

今年度は、それに加えて開催後もアーカイブ配信を行ったり、「障害福祉のあんないアプリ」でのプッシュ通知を活用するなど、周知を工夫する。

【石川委員】

周知用のチラシは作成するのか

【事務局】

現在、障害福祉事業所に依頼し作成中

【眞保委員長】

放課後等デイサービスに配れるといい。

【石川委員】

データだけ送付する予定なのか、紙でも配るのか。

【事務局】

チラシを紙で配布する予定。

障害福祉のあんないアプリでも通知する。

【伊藤委員】

昨年度の会議の説明資料で、就労支援センターの実績の取り方にばらつきがあると聞いた。
実績にメールの件数を入れているとのこと。

その後、どうすることになったのか教えてほしい。

【事務局】

9センターでそろえていく基準を現在整えている。

6 議題

【眞保委員長】

続いて、議題に移る。

「働きたい！私の職業体験・見学会」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

(1) 「働きたい！私の職業体験・見学会」について（資料7にそって説明）

(2) 意見交換

【眞保委員長】

ただいま事務局から説明があったが、御質問などはあるか。

非常に魅力的で効果もある、素晴らしい事業だと思う。

資料7に「申し込み事業者数 31」に対し「参加事業所数 22」とあるが、企業の数の関係で参加ができなかったということか。

【事務局】

その通り。受入れ企業の枠の関係で参加できなかった。

【眞保委員長】

協力企業へ報酬は払ったのか

【事務局】

報酬は支払っていない。企業の御協力により開催した。

【眞保委員長】

この事業に参加した清田委員から意見等はあるか。

【清田委員】

5～6年前に支援者として企業見学した。

今は、移行支援事業所にいるが、A型からの就労者は、年に一人はいる。

本人が就労へのイメージを作るため、支援員と一緒にいけるのは良いと思う。

【草野委員】

参加事業所が集まりやすい企業や業務はあったのか。

【事務局】

業種では「事務系」の人気の高かった。

場所としては「市域全体」への申し込みが多かった。

【草野委員】

当事業所でも、事務系の実習希望が多い。

事務系実習は、受け入れ企業の個人情報や社内情報に触れるため、大手企業だと、社内決裁に時間がかかる。

そのため、個人商店等の小規模事業所にアプローチすることで関係性を築けた。

横浜市としてのアプローチ方法は何か想定しているのか。

【事務局】

職場実習事業やシンポジウムを通して、企業と関係性を築くことで事業が実施できた。

今後、企業から協力を得られるように関係性を築く。

【男澤委員】

なぜ事務系の業種が人気なのか。

【事務局】

想像になるが、体調を気にする方が多いため、適宜休憩がとれるなどの幅の広さが要因だと思っている。

【男澤委員】

自分は、違うと思っている。

働くときは、障害の有無に関わらず「動機」が必要で、それが曖昧だと、何回やっても実施側の満足でしかない。

自分の会社の実習では、「これがやりたい」と本人の意思で来ているので、なぜ事務をやりたいのか。なぜ、スーパーで働きたいのか、きちんと障害者本人の動機を確認することが大切。

本人が体力というのを理由にしているのであれば、それでもいいが…。

【事務局】

今回の体験は、本人の動機や適正だけでなく向き不向きを実感する効果もあると考えている。

A型事業所の作業では体験できない事務を体験し、合わなかったため次は別を体験する。

そういう利用の仕方もあると考えている。

【男澤委員】

北山田小学校の支援級の先生とコラボした経験があるが、仕事に対する意欲醸成は、低い年齢から関わったほうがいいと思う。

その時は、「強み診断カード」という、30パターンあるカードを使用し、本人強みの見える化を行った。

それにより、その人に合った職業を見つけることができるが、本人が思うものと、カードとが違う時がある。

ファンケル等は本人に仕事を体験させている。

体験できると、親が安心する。

中学校・高校で準備を始めると、ミスマッチや二次障害の原因になるため、小学校からやる。地域で行っているので、一丸となって動ける。

北山田小学校は先進的な学校で、他の区ではまだできていないので、こういった取り組みが水平展開できるとよい。

【眞保委員長】

横浜市では、中学校から自治体で仕事体験事業をやっているのか。

【伊奈委員】

わたしは県立の学校の教諭なので、市立は分からないが、中学校支援級で近隣企業の体験をしているというところもあるようだ。

【石川委員】

自分の子供が通っていたところは、一般級クラスとまとめて行っていた。

【男澤委員】

中学校2年生になると、一般級と支援級が混ざってくる。

先生も忙しいので、本人の特徴を分かっているまま送り出すし、企業もそのまま受け入れる。

アレルギーや、空気の吸い込みで動機が激しくなる等、本人についての情報がない。

学校内ではもう対応できないので、先生を責めることはできないと思う。

地域の企業を巻き込んでやる時期になったと感じている。

【眞保委員長】

事務局は、小学校教育の所管課ではないと思うが、「小さいうちから芽を開くのが大切」ということを受け取ってほしい。

【石川委員】

この場での意見は、学童や放課後デイサービス等の「障害児」を担当する、こども青少年局に伝わるのか。

放課後等デイサービスの利用、18歳の壁と言われている。「障害者」「障害児」とでそれぞれ部署は分かれるが、健康福祉局とこども青少年局の双方でやりとりをして取り組んでもらえるといい、と親は思う。

【眞保委員長】

石川委員からも若い親に伝えていただけると嬉しい。

【石川委員】

そういったことはよく言われる。

自分たちのときは、放課後等デイサービスなどの国のサービスはまだなく、自分たちで障害のある子どもたちを見ていたため、「放課後等デイサービスができる前の話をしてほしい」とよく言われる。

サービスの内容も、放デイの事業所によって様々で、十分でないところもある。

【眞保委員長】

サービスの内容がまちまちで、やってくれるところに人気が集まる。

【石川委員】

自閉症は環境の変化に弱いのに、週数日ずつなどの利用をしているとも聞く。

【眞保委員長】

当事者として、高尾委員はどう思われるか。

【高尾委員】

シンポジウムの資料作りの際に、採用する側から、「障害者を雇用することについて、どういう風になるのかがわからない」と言われた。

自分は、企業から配慮してもらえていると思っているが、企業側からすればわからない部分がある。障害者本人が働きたいと思っても、企業にどういう作用を及ぼすか、入ってみないとわからない。

なるべく自分を知ってもらった方が、入る方も安心できるし、採用する企業もいろいろな企業の事例を知れば、準備がしやすい。

入りたい側（障害者側）もそうだが、入る側（企業側）を支えて理解を深めてほしい。大切なのは採用する側の理解の促進だが、そこまで回らない企業も多いと思う。

理解が深まれば長期的に考えて、やりやすくなると思う。

【眞保委員長】

事務系を体験できるところが少ない。

オフィスのイメージがない人でも、体験の場として風穴を開けられたのは貴重だと思う。

参加者の内訳が、精神の方が多いが、医療の面から後藤委員はいかがか。

【後藤委員】

医療サービスを利用している人を参加対象に含めてもらえるとありがたい。

デイケアから就労したいという方もたくさんいるが、医療側は、企業のことを実際良く知らないし、ケースで関わらないと、企業に訪問もしない。

医療分野は、「仲間に入れてもらえない…」と感じてしまう。

【眞保委員長】

22社と限られているので、対象の拡大は難しい部分もあると思う。

事務系の希望が多いのであれば、事務系の見学、例えば、市庁舎本庁の一部を見学することはできないのか。

【事務局】

個人情報のある件もあるので、できることできないこと含め、御意見として受けとめ検討していく。

【眞保委員長】

市役所の見学があれば、企業も入りやすいと思う。

【山木委員】

本事業は良い事業だと思う。

実現できること、できないこと、もあると思うが、「動機」はすごく大事だと思う。

いろんな方がいらっしゃるが、選択できる職業の種類が少ないというのは感じている。

例えば、保育園への就職を希望する方が、障害をオープンにしておらず、辛くなると職場を辞めるが、次も保育園に就職するということがあった。

選択肢に幅があるといいと思った。

選択に幅を持たせるためには、若年層のうちに経験があるといいと思う。

以前、自分の息子が、学童でキッズニアに行っていて、その時はバーガー屋さんになりたいと言っていた。障害特性もあると思うが、小さいうちにいろいろな職業を知れる体験があるといいと思う。

【眞保委員長】

受け入れる職種の幅を広げられるといいと思うが、大変だと思うので少しずつ広げてほしい。

【小林委員】

働く普及啓発としてとても良い事業だと思う。

障害者本人への事業効果を高めるために、働く意欲の高い方を参加者としたり、本人がどんなところで働きたいか聞き取ったり、企業への事前の情報提供も課題だと思う。

対象者を絞る際に、事務局側でのマッチング、コーディネートできると参加された方にとってより良い事業になると思う。

【眞保委員長】

対象者を絞る場合、職種で意欲を見るのは難しいと思うが、働くという意欲が高い方を中心に選ぶとかできるといい。

意欲を事前に確認したり、どんなところで働きたいか申し込みの項目に入れるなど、はいいと思う。また、企業への情報共有の課題についても次年度検討してほしい。

素晴らしい事業だと思う。

【須藤委員】

良い事業だと思う。

ハローワークの窓口に来る方で、A・B型に行っている方がいらっしゃるとき時があるが、その中に、就労することへの心構えがなかったり、企業に行ったら手取り足取り教えてもらえると思っている方がいらっしゃる。

事務職希望が多い理由が先ほど聞かれていたが、理由の一つとしては、「人と関わらないで良いから」が多い。

事務の作業例として、「伝票や商品の名前を入れる。間違えてはいけない。」と伝えると

「自分には無理かも…」という風になっていく。

働くうえでの心構えの部分の部分を向上できるような仕組みを、この事業の中に入れてもらえるといいと思う。

【眞保委員長】

なぜ、働きたいか。申込の段階で見られると、企業にとってもいいかもしれない。

7 報告

【眞保委員長】

続いて、報告案件に移る。

「横浜市障害者支援施設等に準ずる者の認定要綱の改正について」事務局から説明をお願いする。

【事務局】

「横浜市障害者支援施設等に準ずる者の認定要綱」の改正について、資料8に沿って説明

【眞保委員長】

ただいま事務局から「横浜市障害者支援施設等に準ずる者の認定要綱の改正について」の説明があったが、御質問等はあるか。

【眞保委員長】

審査項目については公表するのか。

【事務局】

公表する。細かいものについては非公表。

【眞保委員長】

それでは時間になりましたので、意見交換を終了します。

最後に事務局から、次回の開催について説明をお願いする。

【事務局】

次回の開催予定の案内

【眞保委員長】

それではこれで閉会します。

貴重なご意見をいただきありがとうございました。

次回もどうぞよろしくお願いいたします。お疲れさまでした。

8 閉会